

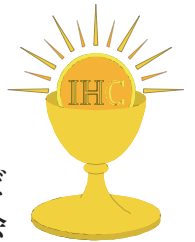
5 月の予定

教会委員会	5 月 10 日
典礼委員会	5 月 3 日
主の昇天	5 月 24 日
聖霊降臨の主日	5 月 31 日



交わりとしての教会に

主任司祭 小林 陽一



中和田教会が交わりとしての教会になるように、少しずつよい共同体にする為には、どうしたらよいのでしょうか。梅村司教様は、「キリストの救いの使命を果たすために、教会は自らが交わりと一致のしるしと道具になるよう努めなければなりません」と司教書簡『交わりとしての教会をめざして』(P2, P3)の中で言うておられます。また、「この実現のために、一致の秘跡と呼ばれる聖体は特に大切です。教会の交わりと一致の源泉は、実にコムニオと呼ばれる聖体にあるからです」と述べられた梅村司教様は、「聖体の祭儀は『教会活動が目指す頂点であり、同時に教会のあらゆる力が流れ出る泉』(典礼憲章 10 項参照)です」とも言われます。さらに、「聖体によって、キリストとの一致、またキリスト者相互の一致がはかられ、教会は『キリストの体としての教会』として、その交わりを実現しています」と『交わりとしての教会をめざして』(P3)で言うておられます。

信者の私たちは、ご聖体を受けることによって、永遠の生命に至る恵みを受けて、キリストと一致することができるように聖なるめぐみを受けます。合わせて、私たちは、キリストの神秘体の一部を構成する者として、ご聖体を受けることによって、信者間がひとつになる恵みを受けます。梅村司教様は、「教会論的側面から言うならば、教会には様々な次元において一致と交わりが見られます。ヨハネ・パウロ 2 世教皇は、新しい教会法典を公布するにあたり、次のように述べています。『教会は共同体として交わりであり、この交わりが、部分教会と普遍教会との間、司教の団体性と教皇の首位性との間に存在すべきこと、同様に、神の民のすべてのメンバーが、それぞれにふさわしい形で、キリストの祭司的、預言的、王的務めに与る者であり、信者すべて、なかでも信徒も義務と権利をもつ者であるということです。また、教会がエキュメニズムのために払っている努力も、そのような要素のひとつになっています』。ここでは、諸教会の交わり、聖職位階にある人々の交わり、すべての信者の交わりという三つの次元の交わりが指摘されています」と言うておられます。

さらに、「諸教会の交わりには、小教区と他の小教区、小教区と教区、部分教会と呼ばれる教区と他の教区、日本の教会とアジアの教会、そして全世界に広がる教会との間に存在する交わりが考えられます。エキュメニズム、教会一致の観点からは、正教会、聖公会といったカトリック以外の諸教会、さらにプロテスタントの諸教会との間の一致ということになります。教会はキリストの教会としてひとつになることが求められています。」(『交わりとしての教会をめざして』P6)と梅村司教様は言うておられます。

私たちの教会も、共同体として活動していけるようになるには、どんな点を変えていったらよいのでしょうか。私たちの教会が救いの使命を果たすように、交わりと一致のしるしとなるために、交わりと一致の道具となるために、何をしたらよいのでしょうか。どのような祈りに私たちの祈りが変わっていったらよいのでしょうか。現状に甘んずることなく、この司牧書簡を読み合っ、グループの中で話し合っ、探し求めていきましょう。

5 月は聖母月です。「マリア様、私たちの教会が交わりとしての教会になるためには何をしたらよいのでしょうか」と祈る時、きっと力が与えられると思います。マリア様の取り次ぎを願いましょう。



パウロの宣教地を訪ねて

第2回 「パウロ宣教足跡の紹介」

下村 毅

パウロの宣教した都市を1・2・3回目と色分けしました。下のルート図を参照ください。更に、重複宣教した（宣教効果の確認と再宣教）都市も色分けしました。そして今回私共が廻った都市は下線の所です。

1回目宣教・1回目と2回目宣教と重複

2回目宣教・2回目と3回目宣教と重複

3回目宣教・1回目・2回目3回目宣教と重複

✚ パウロの第一回宣教（紀元46年～48年頃）でパウロが訪ねた都市

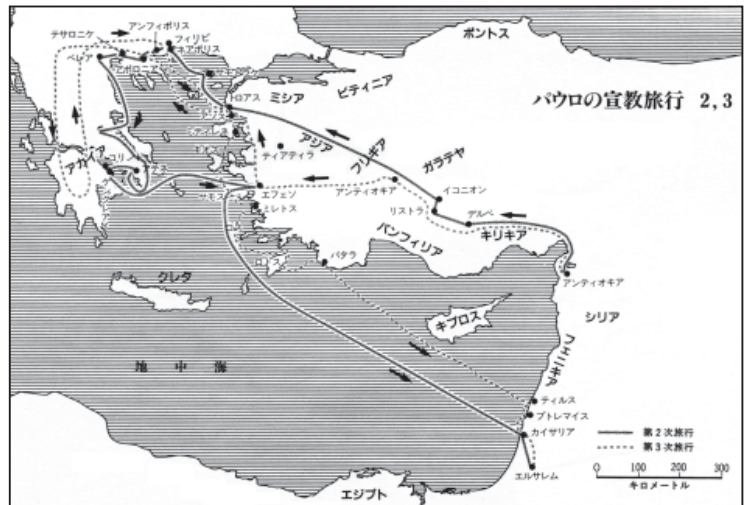
アンティキオ（セルキア港）～キプロス島～ベルゲ～ヤルバッチ（ビシディアのアンティオキア）～コンヤ（イコニオキア）～リストラ（石打の刑に遭う）～デルベ～アタリア

✚ パウロの第二回宣教

エルサレム～アンティキオ～タルソス～デルベ～リストラ～コンヤ～ヤルバッチ～トロアス～フィリッピ（鞭打と投獄）～テサロニケ～ベンア～アテネ～コリント～エフェソ～カリサリア～エルサレム

✚ パウロの第三回宣教（紀元54年～）

アンティキオ～タルソス～キリキア～ガラテヤ～エフェソ（3年間滞在）～アソス～トロアス～フィリッピ～テサロニケ～ベンア～アテネ～コリント



2・3回足跡図

☆今回の巡礼地のポイントをいくつか紹介しましょう（◎は写真添付のところ）

◎アンティキオ（セルキア港）：の第一回宣教の出発点（パウロとバルナバが異邦人伝道のためギプロス島に向かった港）2回目はエルサレムから徒歩で来て、タルソに向かいました。



セルキア港

◎タルソ：パウロの生誕地。現在、住居跡は基礎部分がガラス張りで保存してある。
パウロが使用したと言われる井戸（釣る瓶式）は健在。



パウロの井戸

○キリキア峠：パウロが越えたであろうタウロス山脈の峠。（3000m級の山が連なり冠雪があり、徒歩での旅は困難を極めたと思います）



三姉妹岩

◎カッパドキア：聖ペトロが宣教活動した街。紀元4世紀以降、キリスト教徒がユダヤ教からの迫害され隠れていた地下都市と奇岩が連なる場所での住居・教会跡など、ギョレメ屋外博物館など世俗的観光地。



コロサイの丘

◎「コロサイの信徒への手紙」のコロサイの丘は、遺跡とはいえない様な小さな山でした。遺跡の欠片が散らばっていましたが、小さな都市のようです。

○アソス：パウロが第三回宣教でエルサレムに向かった港町

○ミルト：古代遺跡。エフェソの長老たちを呼び、感動的な別れをした港（使徒20・17）

◎トロアス：町遺跡はパウロが幻を見て、遺跡から少し離れたこの港からマケドニア伝道に出航しました。



トロアス

◎「コリントの信徒への手紙」-1、-2

コリントの遺跡は山の上にある。コリントのケンクリアの港はシリアのアンティオケに戻った港。



コリントの遺跡

◎アテネ:有名な「アクロポリスの丘」の麓にある「(小さな)アレオパゴスの丘」(紀元前7世紀から裁判が行なわれていた所)に「パウロの宣教台」がある。49年頃「死者の復活について」宣教しましたが、群衆にあざけ笑われ、受け入れられなかった。



宣教台

パウロが書いた手紙は、次の七つではないかと言われております。(他は「パウロの弟子では」と)

*ローマの信徒への手紙 *コリントの信徒への手紙第一 *コリントの信徒への手紙第二 *ガラテアの信徒への手紙 *フィリピの信徒への手紙 *テサロニケの信徒への手紙 *フィレモンへの手紙

次号に続く(第3回目は「アジアの七つの教会」です)



4月の要理学校だより

シスター谷口のお話を聞いて 谷 理 恵

3月15日に、シスター谷口のお話を聞く機会に恵まれました。とても良いお話をさせていただきました。シスター谷口は、『今、子供たちに信仰を伝える事に燃えています』との言葉どおりに、魂の燃えている光が体から放射されているようでした。

神様ってどこにいる? 確実にいるのは、御聖体、御言葉、みんな自身の中。キリストの名によって集まった人々の間。お祈りって何? 神様とお話すること。だから生きた信仰のためには教会に行くのは大事な事。子供たちの注意をそらさず、きちんと伝えたいところが伝わるお話でした。子供に伝えるためには大人に話すよりも何倍も考えて、準備をされるそうです。お話を聞いた子供たちは、お話の後で元気が増していたように感じました。

お母さんたちへのお話で印象に残った言葉をいくつか書いてみます。

子供に何か話をして、細かいところや、話し手のことは、すぐに忘れてしまう。(シスターは何もお返しが無いところがいいと表現されていました)けれど、その場の雰囲気、心の中に神様が通っていった足跡が残っている。それが、大人になった時に生きていく力になる。

カテケシスとは、『自分が、救われた、無条件に受け入れられている』というお恵みの経験、それを何をおいても伝えなければ、という思いが大事である。(個人の信仰宣言)それが無くては、伝わっていかないとのこと。言葉で教えていなくても、毎日の生活で、両親が神様を大切に暮らしている姿を見ることが、子供たちにとって大切である。と

いったところでしょうか(全部は書ききれません)。カテケシスって難しくなかったんだ! と思ったあと、親としては、普段の生活や心構えから、襟を正していかなければならないのだなと考えて、やっぱり違う意味で簡単ではない事に気づきました。お話を聞くだけで終わりにせず、活かしていかなければと考えています。

横浜教区教会学校リーダー研修 第2回

~ 子どもたちに伝えよう 「お祈りっていいもんだよ」~



美底 真里安

萩原千加子先生(カリタス小学校教頭)の講演会、この度は菊名教会にて開かれました。

まず前回の「身体を使った祈り~深い呼吸法」「セロトニン神経の働き、能に秘められた人格」や「ミニロザリオ」、「ザアカイ」を参加者の感想と共に丁寧に見直しました。

そして今回の:「沈黙」~音、知覚のエクセサイズ:「味わいの祈り」日々の黙想~子ども向けのミニ「靈操」:「イエスさま椅子をどうぞ」~神の現存を意識する助け:「ベネディクトの祈り」~靈的読書:ポスターセッション等。

どの実践も熱意の伝わる魅力的で即効的な内容でした。教会学校でも、家庭でも是非子どもたちに伝えたいですね!...そして、先生がまとめて力説されたことは、私たちが伝えることにより、「福音の連鎖を産む」と言う宣教の喜びでした。

更に、最後の濱田神父様司式の派遣ミサでは、石井拓真君と大河君が侍者を務める姿に、未来への希望を見る思いが致しました! 神さまに全てを感謝したいと思います!

マリアさまの絵本を読んで

石崎 博美

4月26日、要理学校の子供達に何を話そうかと考えていた時、マリアシャトーの本棚に「マリアさま」の絵本が目にとまりました。子供達に、あなた達には、マリアさまは見えないけれど、あなた達が楽しい時も、悲しい時も、苦しい時も、いつもマリアさまはあなた達の近くにいて見守ってくださるのですよ。だから一日一回でいいからお祈りをして下さい。と子供達に話をしました。子供達も優しくきれいなマリアさまを思い浮かべながら、話を聞いてくれました。



切支丹屋敷最後の住人 シドッチ神父

(その - 1)

鶴田 恒之

切支丹の弾圧が行われたのは、元和2年(1616年)にザビエルが渡来してから67年後のこと。すなわち、秀吉が切支丹禁止令を発してから26年後、長崎で26聖人の事件が発生するなど秀吉による大量虐殺があってから19年後のこと。この頃、収容して改宗を勧めるために江戸に屋敷が作られたという。

小石川の小日向町に作られた「切支丹屋敷」は、別名「山屋敷」といい、当時数あるこの種の屋敷のうち主だった信者を全国から集めて収容した所という。他の犯罪者と区別して収容し、転宗を謀り、見せしめのため斬首、磔、拷問などで殺害したりした。長期にわたって収容された信徒が最も多かったという。

その中で、最後の神父となったジョアン・バティスタ・シドッチ神父のことに書いてみたい。皆さんはすでにご存知のこととは思いますが、調べてみると知らなかった事実も多くある。

シドッチ神父は、1668年にイタリアのパレルモに生まれる。殉死した最後の神父である。1702年(元禄14年)12月、赤穂浪士の事件があり天下素平な世の中で、庶民は、多くの切支丹が捕らえられ、殺害されたこと以外は関心がなく、栄華に酔いしれていた。「切支丹屋敷」にはまだ入牢者はなく、牢番の夫婦者以外はだれもいなかった。



1708年(宝永5年)8月29日(陰暦の10月10日)、マニラを出航した「サンタ・トリニダ号」が台風に遭遇し、3ヶ月をかけて日本の沖合に現れた。大隅半島の先、鹿児島・恋泊村字松下の沖に大きな帆船が現れ、村民があれよあれよと騒ぐなか、夕刻には姿を消していた。切支丹禁止令が出されて、外国船との接触は特に厳禁とされ、食料や水を与えるだけでも厳罰の時代、村民の狼狽ぶりはもちろんのこと、噂は村から村へと伝わり、役人も狼狽していたが、船がどこかに去っていったことで安堵の胸を撫で下ろしたという。

ところがその翌日、その怪船が沖合から再び恋泊村松下に現れ、武士らしき格好をした、身の丈七尺を超える大男の異人が砂浜に降り立った。『長崎夜話草』による子細な記録では、「この者日本の風俗に似せて月額を剃り上げ、日本の衣服(着物)を着用し、刀腰に差し、首に十字架を下げ、手に数珠らしきものを持ちていたり。炭焼きの翁を手招きして食するものを乞う。その値いかほどかと聞き、見慣れぬ金子(きんす)を与えて、いと不思議という。その者の髪の毛黒く、目は唐人にあらず、鼻すぐれて高く、日本のことさまざまなこと書き付けたる横書きの書物らしきもの放さず、これを開きて応対せしという。また、天に向かって口を動かし、異なること多し、云々」とあり、また、「恋泊村の炭焼きの翁役人に届け出したるも意味解せず、島津藩に訴えた様子あり。取り調べのうち、ロウマ、ロソン、カステイラ、ナンバンなど書き、ロウマのところでは、自らの胸を指し示したという。それにて解することできず、オランダ語にて意味通ぜず、長崎奉行に上訴せしという」。

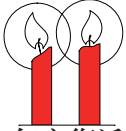


捕らえられた神父は言葉が通じず、困った島津藩は、長崎奉行に相談、長崎に護送し、オランダ商館のアンデレ・アン・ドウという者がすこしラテン語が出来るというので、立ち会ったらしい。その時の口述書が残っている。「彼(神父)、数人の男に連れられ、手は後ろ手に縛られ、やせ細り、青ざめ、面長く、鼻高し。日本風の月額は壊れたままとなり、手に数珠らしき物を持ち、わきの下に二冊の本を抱えたり。時々天に向かってなにやらを呟き、異なり」と。

神父は、日本に行けば、どんな目に遭うか承知していた。寛文2年(1662年)イタリアの司祭サッカーノが上陸後捕らえられ、殺害されたことも知って、牧者を失った信者のことを思うと、シドッチ神父は居ても立ってもいられず、いかなる迫害に遭おうとも、日本に上陸し、信者を慰め、信仰を助けたいと思ったという。

祖国イタリアを出発したのは、1703年(元禄16年)3月。中国に行くトルノン神父と共にジェノアから船に乗り、スペインを経てフランス船に乗り換え、アフリカで経由インドに着いたのはその年の11月6日という。そして、さらにマニラに着いたのが翌年1704年9月だった。神父は気があせていたが、そこで4年の歳月が流れた。その間、慈善事業を助け、布教に努め、神学校を作り、人々から聖人と崇められたという。町には多くの日本人が住み、日本語研究書の2冊目を書いた。かくして、宝永5年(1707年)マニラの人々の涙と祈りのうちに、日本に向かった。日本に上陸する日、神父は、ローマ法王宛の覚悟の手紙をサンタ・トリニダ号の船長に託した。この手紙は翌年届いたという。これは、今も法王庁に現存するという。

(次号に続く)



共同回心式について

典礼委員会

今年も復活祭を迎えて「共同回心式」は、藤沢教会岩間勉師にお願いいたしました。毎年この時期、中和田教会では（復活祭前の土曜日午後）に行なっておりますが、お勤めの関係や、学校の関係とうで、教会に来たくても来られない方が居られます。

多くの方々に「共同回心式」に参加していただくため、典礼委員会では小林陽一師にお願いし、（翌日）日曜日主日ミサの後「癒しの祈りの会」を、実施いたしました。

その内容を記すとともに、第五地区宣教司牧委員会の報告でも、「今後も司祭不足は解消できない」とも言われています。このような状況下で、いかに「共同回心式」を続けて行くかを模索しています。皆様のお考えをお聞かせください。

1. 藤沢教会 岩間 勉師による「共同回心式」

(1) 日時・参加者：09.3.28（土）13：00～17：00 参加者：40名

(2) 講話内容：「イエス・キリストの復活について」

- a. まず、黙想会にあたっての心の準備と体のバランスについて話をされました。
- b. 一年の典礼の頂点は、四旬節からはじまって「聖なる三日間」で構成されて、「イエスキリストの復活について」この時期に思いを深めましょう。
- c. ゴルゴダの丘の出来事はイエスの痛ましいできごとであり、「神を、最も信じなさい」と言われています。私たちが心の中で「神に十分に愛されていること」を、祈りの中で唱えましょう。
- d. 放蕩息子：ルカによる福音書 15—11 父のところでは、あんなに大勢の雇い人に余り余るほど、パンがあるのに私はここで餓え死にそうだ——
この話は、父親が主であり、遠い国から見る神の国の喜びは、自分たちが進むように、イエスの生涯を私たちの日々生活の中で生かされています。
弟息子は、自分の犯したことに困り果て、死期が近づいて来たときに気づき、親の家に入れば、親は心を開いてくれる。「親は、戻った時の以前は問わず、愛を持って元に戻すよう」に進めてくれています。
兄息子も、親の教えを守り実直に生きてきたが、自分に対して自分の生き方・自分の要求など、こちらも生死をさまよっているように見えます。
- e. 洗礼式では、「神の子」となることを意識し、神と苦勞を共にしていくことが告げられます。「イエスは全ての人を救うために居られます」と結ばれました。

(4) ミサ (5) 赦しの秘跡 (6) 懇親会

2. 中和田教会 小林 陽一師

(1) 日時・参加者：09.3.29（日）10：30～12：00 参加者：20名

(2) 講話内容：「聖なる三日間」

- a. 受難の主日：死を通して復活と言う、受難を黙想し参加するための主日で、聖なる三日間の典礼にふれない信者には、大切な四旬節最後の日曜日です。
- b. 聖なる三日間が一つになっていることが分かります：第一日目には「覇権が無く」、第二日目には「入祭が無く」、徹夜祭の後に「派遣」があるのです。
 - ① 第一日目には、「洗足式」が行なわれ、最後には「聖体安置式」によりご聖体は仮祭壇（応接室）に置かれます。聖堂には何も置かれません。
 - ② 第二日目には、みことばの典礼・受難の朗読・盛式共同祈願・十字架の礼拝が行なわれます。「何も無い聖堂の静かな雰囲気を保つ」ことは大切です。キリストが墓に葬られた後の、何も無い時なのです。
 - ③ 徹夜祭は、光の祭儀から始まり、ことばの典礼では、旧約聖書の朗読が行なわれ、求道者に救いの歴史を利かせるためのものです。その後、洗礼・堅信式と繋がっていきます。この聖なる三日間を大切にしましょう。

(3) 聖母の連騰 (4) 赦しの秘跡

ご報告とお礼

福祉グループ 中島 喜美子

「2009いのちを守るための緊急支援」の呼びかけに応じて、福祉グループでは支援のミニバザーを計画し、皆さまにご協力をお願い致しました。その結果、たくさんの支援物資や提供品、また支援金が集まりました。

そして、4月26日（日）ミサ後、予定通りミニバザーを行い、たくさんの方々にお立ち寄りいただき、3万円の売上がありました。支援金募金のビンに集まった3万円と合わせた6万円を、4月28日に、それぞれ浜松教会（3万円）とカリタスジャパン（3万円）に送金させていただきました。

また、支援物資の方は、身近な方々への支援を優先し、中和田教会に来ておられるベトナムの方々を通して、地域の外国籍コミュニティーの方々が必要とされている方々に分配していただくことにいたしました。

以上ご報告させていただきます。皆さまのご協力ありがとうございました。

委員会だより

△4月19日(日) 9名出席▽

■報告・審議事項

- (1) 中和田教会敷地と隣接地との境界に関する一連の案件(再測量立会い、境界画定)は教区の参画も頂いて、円満に終結した。この間、教会正門脇の花壇解体、腰壁設置などに関して、武田さんご一家の絶大なご奉仕を頂いた。厚く御礼申し上げる。本件は別途営繕Gより信徒の皆様にご報告等で経緯・経過報告する。
- (2) 黙想会・共同回心式・聖週間/洗礼式・復活主日の一連の行事が行われたが、とくに大きな問題もなく恙無く無事終了した。ご尽力、ご協力頂いた皆様に感謝。
- (3) 横浜教区典礼委員会主催聖体奉仕者研修会が6/21、7/19の両日開催される。参加者は主任司祭の推薦が必要であり、近々小林神父が個別に候補者に打診予定。またこれに加え、10年度横浜教区神学生志願者申込・共同宣教司牧チーム神奈川による09年度研修会申込案内が来ている(いずれも小林神父預かり)
- (4) 4月26日に開催する「助け合いミニバザー」(福祉G主宰)に関して:
 - ◆ 出品する品物や支援物資、募金は、信徒のご協力で順調に進行中
 - ◆ 雨天でない限り中庭で開催して、通行人にも呼び掛ける。雨天の場合は新集会室で開催
 - ◆ 集まった義援金・物資の送り先については、福祉Gが起案して来月の教会委員会で決定する。
- (5) 5月3日に宮内神学生の助祭叙階式が山手教会で開催される
 - ◆ 多数の参加呼びかけ(小林神父)
 - ◆ 第5地区2010年司祭叙階準備委員会には、中和田から井上さんが参加
- (6) 5月9日に「第13回障害と共に歩む集いin忍野(山梨県忍野村・富士聖



ヨハネ学園)が開催参加の呼びかけ(小林神父) ↓ 福祉Gで参加再検討

- (7) 5月10日第5地区教会学校春の遠足
 - (8) 5月23・24日第5地区青年交流の集い(藤沢教会青年有志の企画)
 - ◆ 参加の呼びかけ ↓ 宣教G
 - (9) 6月7日(三位一体の主日)に司教様をお迎えし開催予定の堅信式:
 - ◆ 式次第起案: 典礼G+宣教Gで起案(4月26日の典礼委員会にて)
 - ◆ 受堅者は、成人2名、子ども11名
 - ◆ リハーサル: 5月24日実施
 - ◆ 堅信祝賀会はリーダーの横塚さんを中心に計画
 - (10) 湘南キリスト教セミナー: 本年度は11月7日(土)に中和田教会で開催
 - ◆ 講師として山谷で活動しておられる中谷功神父様をお迎えする
 - ◆ 演題: セミナー進め方は中谷神父様とも相談の上準備委員会に詰める
 - ◆ 宣教グループだけでなく、中和田教会全体で盛り上げていくことが必須で、今後の重要課題
- 各グループ連絡・報告事項
- a. 財務G:
オルガン特別献金は、信徒各位のご協力により3月末日締めで594,759円に達した。(オルガン献金納付がその後も続いている) 財務委員より、最終確定値をミサ後のお知らせで信徒各位に報告する。
- b. 営繕G:
◆ 女子トイレ改修は既に完了したが、何点か改善要望あり。善処していく。
◆ 男子トイレ工事は引き続き実施し、8月末完了で計画(本件決定事項)
◆ 消防機器点検を3/30に実施、消火器交換など対応処置済
◆ ガス機器改善も4/16に対応処置済
◆ 前述の隣接地との境界の案件に関連して、「(防犯の為の)網フェンス」「自転車置場」などの保留事項あり

委員会後記 小野委員長

4月5日の受難の主日(枝の主日)に始まる聖週間、復活徹夜祭・洗礼式、そして復活の主日ミサ・祝賀会と続いた一連の典礼・行事が皆様のご協力により恙無く終えることが出来た喜びを分かち合いたいと思います。有難うございました。また一連の典礼・行事を通して、お気付きになられた点、問題点などございましたら、ご遠慮なく教会委員までお知らせ下さい。聖週間に洗礼を受けられた方々と共に、私たち信徒全員が気持ち新たに、小林神父様が巻頭言で述べておられる「交わりとしての教会」が実現できますように。

■聖中和田教会の次なる大きな行事は6月7日に司教様をお迎えして行われる堅信式ですが、これに向けて既に受堅者の皆さんが準備の勉強を進めています。中和田全体で堅信式を盛り上げるべく、信徒の皆様のご協力をお願い申し上げます。また、委員会だよりに記載されている通り、5月には横浜教区主催の行事が多く行われます。是非、教区の行事にも深い関心をお持ち頂き、積極的にご参加下さいますようお願い申し上げます。

■4月26日に、福祉グループ主催の助け合いミニ・バザーが開催されましたが、多くの方々のご協力、ご奉仕を頂きました。有難うございました。集まった義援金・物資の送り先については決定次第あらためて皆様に福祉グループから報告させて頂きます。今回の行動が、更なる助け合いの輪に広がっていきますように。

典礼こよみ (5月)

日	曜	ミサ・勉強会	備考
1	金	初金ミサ (10時)	掃除1G (9時30分)
2	土	主日ミサ (18時)	
3	日	復活節第四主日	典礼委員会
9	土	主日ミサ (18時)	掃除2G (9時30分)
10	日	復活節第五主日	教会委員会
14	木	聖マチャヤ祝日	
16	土		掃除3G (9時30分)
17	日	復活節第六主日	
23	土		掃除4G (9時30分)
24	日	主の昇天	子どもと共に捧げるミサ (9時)
30	土		掃除4G (9時30分)
31	日	聖霊降臨の主日	典礼ミーティング